

第 45 回 2018 年 6 月 27 日 (水)

ゲスト 鈴木潤 読売テレビ報道局 報道映像部長

テーマ 「関西で一番元気なカメラマン集団

～ネット時代 テレビ生中継も飛躍的に進化～」

#### 主な内容

- ◎現役カメラマンへのこだわり
- ◎“福男選び”と岸和田だんじり祭りへのこだわり
- ◎<sup>はっぴすがた</sup>法被姿で顔出しリポート
- ◎23 台のカメラで追う 西宮神社“福男選び”の中継
- ◎町内会の地域組織にくい込む 岸和田だんじり祭り
- ◎自宅から追跡撮影 大阪府北部地震
- ◎先輩からの教え「地図を覚えろ」 渋滞の緊急時を救う
- ◎教育大付属児童殺傷事件でスクープ 自宅に小型デジタルカメラ
- ◎日本の初戦相手国を追ってアフリカ取材 4 年前の FIFA サッカー
- ◎読売テレビ 三作品が受賞 関西写真記者協会の部門賞
- ◎ネット回線利用の「簡易中継装置」導入 平昌五輪から生中継
- ◎大地震・大津波 緊急時の生中継はやはり SNG とマイクロ波か
- ◎65 年前 初のテレビ生中継はトラック 2 台で機材運搬 (例会資料)

司会 先月(6月)18日の「大阪府北部地震」(最大震度6弱)でご自宅が被害を受けられた方もいらっしゃると思いますが、皆さまは如何でございましたでしょうか。

本日の例会は、報道現場の最前線におられる読売テレビ報道局の報道映像部長鈴木潤さんに、震災直後で大変お忙しい中、お越しいただきました。

鈴木部長 よろしくお願ひします。

司会 現役の放送人にお話を伺うというシリーズですが、これまで気になりながら、なかなか来ていただけなかった放送現場、特に撮影現場を仕切る責任者である鈴木部長から、ネット時代における映像伝送の最新情報なども含めたっぷりお伺いしたいと思います。

「関西で一番元気なカメラマン集団(YTV)」というタイトルを付けていただきました。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、優れた報道映像や報道写真に贈る昨年(2017年)度の関西写真記者協会の賞に読売テレビで放送された三つの作品が選ばれました。スポーツ部門賞で金賞、企画部門と撮影部門でそれぞれ銀賞を受賞しています。後ほど受賞作品を見せていただきますが、まさに関西で一番元気なカメラマン集団という気がします。

さて、このカメラ集団を率いておられる鈴木潤さんは、早稲田大学をご卒業後、1984年に読売テレビに入社。先日の打ち合わせの際、言葉遣いから、西の方じゃないな、何となく東京方面の方だなと思いましたが、東京・埼玉で生まれ育ったということでした。

入社以来カメラマン、カメラデスクをされて、1993年から4年間ワシントン特派員の経験もされています。

実は鈴木さんには、カメラマンとして長くこだわっている取材対象があります。一つは今ではすっかり有名になっている西宮神社(兵庫県)の開門神事 十日戎の“福男選び”の行事です。鈴木さんは2002年から毎年、独自の視点で取材を続けておられます。それからもう一つは大阪・岸和田のだんじり祭りです。祭りを主催する地元の組織に食い込んで深い取材を続けておられます。どんなお話になりますか、すでにDVDもスタンバイしております。早速鈴木さんにお話を始めてもらいましょう。

#### <現役カメラマンへのこだわり>

鈴木部長 報道局の報道映像部という名前は、関西のテレビ局、MBSやABC、そして関西テレビの映像取材部と同じなんですけど、そこの部長をやっております。先ほど何人かの方に名刺をお渡ししましたが、肩書の横に「チーフカメラマン」と表記し

ています。(非公式ですが) この表記のある名刺に(カメラマンとして現役である)私はこだわっています。

皆さんも一つの部署にずっととどまったままで、定年を迎えられたのではないと思いますが、私は実は、一般職で入社しました。最初の希望の職種はスポーツディレクターでした。といたしますのは、早稲田大学のボート部で活動し、早慶レガッタにも出場していました。そこで4年間やっていたので、就職の面接の際、オリンピックやワールドカップの中継をやってみたいと、スポーツの話題をしゃべっていたように思います。ところが、入社するとスポーツディレクターは採らない、配属しないということが研修中に分かったんです。それなら、ということではないのですが、報道カメラなら体力に自信もあるので、面白そうだなという形で希望すると、運よく入れて、それ以来26年間ずっとカメラでやってきました。(読売テレビの場合)一般職採用と技術職採用の割合は半々ぐらいで、私は一般職でカメラセクションに配属されたこととなります(以来、26年間異動がなかった)。そして2010年頃、これは人事異動になって一か月後ぐらいに聞いた話ですが、YTVでもジョブローテーション (Job rotation) という制度(定期的に職場の異動を行う)があるって。私はこのままずっとカメラでやっていきたかったのですが、この制度の対象になり、いきなり日本テレビへ出向することになったのです。しかも(カメラでなく)報道デスクという立場で1年4か月東京にいました。

その後、読売テレビに戻ってきて、報道デスクを3年ちょっとやって、2015年に報道映像のカメラスタッフを率いることになるのです。

入社して35年目になりますが、ほぼ30年間、幸いなことにカメラセクションに在籍していることとなります。

#### < “福男選び” と岸和田だんじり祭りへのこだわり >

映像デスクのとき、平日の月～金、毎日デスクを9年間続けたことがあります。月～金を一人でデスクを9年間もやり続ける、そんなセクションは他にはないんです。ハードな仕事なので、大体2週間交代とか1週間交代とか、デスク業務は通常2人ないし3人で回していくものです。私のときには、たまたま1人でやっていたため、かなりのストレスがたまってきて、自分で企画を立て、取材しようと思って始めたのが、今から見ていただく映像作品です。

冒頭で紹介した毎年9月中旬に行われる「岸和田だんじり祭り」と十日戎の行事「西宮神社の開門神事“福男選び”」。いずれも私自身が現場に立ち、顔出しレポートをしています。岸和田でだんじり祭りが行われるのは、9月中旬の土曜日、日曜日が祝日が多いんです。だから勤務上は(管理者である)私が現場に出向いてもあまり支障をきたすようなことにならない。1月10日の西宮神社の開門神事

も朝 6 時の時間帯で“福男選び”が実施される舞台も本殿まで 230 くらい短い距離ですので、すぐ終わっちゃいます。

映像を見てもらうと分かりますが、岸和田のだんじり祭りでは、僕は法被はっぴを着ています。今はだんじり祭りを取材するのに規制が厳しくなって、報道腕章をつけていてもだんじりが走る中心部に入れてくれません。しかし、この法被を着ていると、取材する側の視点から疾走する勇壮なだんじりをカメラに収めることができるのです。

僕が 2001 年に初めてだんじり祭りを撮影したときから、ある町内の協力を得て、だんじり祭りに密着取材することができるようになったのです。

ということで、法被姿の YTV カメラクルーは比較的自由にだんじり祭りを撮影できるのです。

「岸和田だんじり祭り」の撮影は、1 年後、2 年後も続けていると思いますので、ぜひ昼のニュースでは YTV にチャンネルを合わせて見ていただきたいと思います。

司会      なぜカメラマンにこだわっておられるのですか。

#### <法被姿はっぴすがたで顔出しレポート>

鈴木部長    面白いですね。最近はやいスタッフと一緒に取材しています。

顔出しレポートもやっています。僕はおしゃべりのほうは得意でもないのですが、この 4、5 年前から現地の報告者として、顔出しレポートをしています。2014 年のソチオリンピック(ロシア)の総合デスクをしていましたので、自分で撮って、自分でレポートをすることもあります。

それでは、まず昨年 2017 年 9 月に行われた「岸和田だんじり祭り」の映像からご覧ください。スピード感あふれるだんじりの迫力ある映像を見せながら

導入部・女性アナのナレーション

「恒例の『岸和田だんじり祭り』が始まり  
城下町は祭りムード一色に染まっています」。

法被姿の鈴木潤部長がレポート。

「午前 6 時です。岸和田のだんじり祭りです。  
男たちの熱い熱い二日間の祭りが始まり  
ました」。

男性アナ

「重さ 4 トンを超えるだんじり 34 台が男たちの

威勢のいい掛け声とともに岸和田の町中に繰り出しました」。

女性アナ

「江戸時代から 300 年以上続く岸和田のだんじり祭り。あいにくの雨となりましたが、祭りは例年通り行われ、直角に向きを変え、やりまわしでは、観客から大きな歓声があがりました。

明日はだんじりが神社に参拝する宮入りが行われます」。

### <23 台のカメラで追う 西宮神社 “福男選び” の中継>

鈴木部長 これが今年のだんじり祭りです。昼ニュースで放送された約 1 分の映像ですが、町の人たちの協力もあって、やりまわしなどスピード感あふれるだんじりの動きが撮影できていると思います。

次は昨年 2017 年 1 月、十日戎の恒例の行事、西宮神社開門神事の “福男選び” の映像を見ていただきます。夕方のワイドニュース「かんさい情報ネット ten」で放送した企画ニュース（約 5 分 30 秒）。

取材は、

本番前日から並ぶくじ引きを待つ男たちの行列をとらえる。

男性アナが冒頭(ナレーション)

「鳴り響く太鼓の轟音ごうおんと共に勢いよく駆け出す猛者もつきたち。押されようが、転ぼうがかまわない。福男の勝運を得るため、この年に一度の熱き戦いを、**23 台のカメラ**で総力取材。果たして一番福は誰の手に」。

鈴木部長が脚立の上からレポートする。

「(福男選び本番の前夜)午後 11 時を回りました。西宮神社です。くじ引きまであと 1 時間、開門まであと 7 時間となりました。今年は凄い数の人が並んでいます。いや、これは凄いな。(行列の)向こうが見えません」

鈴木レポートをうけて、男性アナがなぜくじ引きが行われるのかを説明。

「福男になるためには、先着 1200 人の中からくじで先頭集団の 108 人に選ばれなければなりません」とくじ引きを待つ行列にもマイクを向ける。  
“くじ運も試される”

“福男選び”本番の日の午前 6 時に、  
鈴木部長 再びカメラに向かって開門を告げるレポート。

映像は、  
表開門から三つの角を曲がり、本殿まで 230 歩をダッシュする男たちを、ポイントごとに角度をかえて置かれた 23 台のカメラが追う。  
そして、ゴールは一番福の男が本殿前に飛び込むその一瞬である。  
仕込みも、仕掛けもない、しかしドラマティックな瞬間を記録している。

鈴木部長 西宮神社の“福男選び”の取材は、今では大勢のカメラマンが集まるのですが、かつてはカメラマンが 3 人ぐらいしかいませんでした。この神事がテレビに出始めたのは、2000 年ぐらいからではなかったでしょうか。まず関西テレビの鈴木さんというカメラの方が（もう 60 歳を超えておられる）取材を始め、そこへ僕が続いて取材を始めました。今は各局とも最低でも 10 台以上のカメラを駆使して“福男選び”を追うというフィーバーぶりになっています。もう取材合戦となっています。当初は ENG カメラを動員するのに苦労しました。十数年前に比べると、今は小型のデジタルカメラも性能が良くなったので、各ポイントにカメラを配置することも容易になってきました。“福男選び”をめぐる取材ではそういうのも時代背景にあります。私の宣伝みたいな話になりましたが。

司会 話が止まらないと思いますので、その場、その場の質問にしていきます。なぜ鈴木さんがカメラに向かってしゃべり出す(レポートする)ようになったのですか。

鈴木部長 (カメラに向かって)しゃべり出すようになってもう 10 年以上になります。  
(西宮神社では)毎年、門が開くところ、つまり“福男選び”の第一コーナー、  
直線のところのカメラを担当していました。さすがにもう飽きてしまって、  
というかそれまでスタートのところで、顔出してレポートをしている局がどこ  
もいなくて、どうせやるなら顔出しレポートをやってみようかなと思い、始めた  
んですよ。

司会 その後、ずっと顔出しのレポートをやっていたらっしゃるんですか。

鈴木部長 そうですね。「だんじり祭り」に関しても 10 年間ぐらいはずっと続けています。  
それでいうと、読売テレビは「だんじり祭り」も“福男選び”も記者はいっぱい  
来ていないんですよ。

司会 そうですか。

鈴木部長 記者が現場に来なくても「だんじり祭り」は、昼ニュースに関しては予定稿を書  
いておいて、カメラマンが新しい情報を送り本社で書き加えていきます。

司会 “福男選び”のカメラマンの配置ですが、事前に考えておられるのですか。

#### <町内会の地域組織にくい込む 岸和田だんじり祭り>

鈴木部長 2001 年から取材を始めて、東京の日本テレビからも朝のワイド番組「スッキリ」  
とか、夕方の「news every」とかのスタッフが来て、打ち合わせをしますかと、  
言ってくるんですが、僕は、打ち合わせが大嫌い。ニュースなのでどうなるか分  
からないじゃないですか、当日 1 時間前にお前はここという感じで指示し、心  
の準備をさせない。それをポリシーにしているんです。

「だんじり祭り」に関しては、私とプロダクションのほうから派遣されているカ  
メラマンと 2 人で撮影します。このカメラマンは極めて優秀で、ストレートニ  
ュースのほかに必ず 12~13 分の企画ものを作ります。

例えば、<sup>まえてこ</sup>前艇 だったり、<sup>だいくかた</sup>大工方 だったり、<sup>うしろでこ</sup>後艇 の人などだんじりを動かす人  
をフィーチャー（特集）してまとめてきました。

【注】 ▼前艇⇒前に突き出た二本のテコでブレーキをかける役目。

▼大工方⇒屋根の上に立って調子をとる。

▼後艇⇒後ろのテコでだんじりを回す役割・

もう 10 年ぐら取材していますので、「だんじり祭り」を素材にしてまとま  
ったものを制作しようとなると、ネタも含めて切り口をどうするかに苦労します。

司会 だんじりの一つに乗っているんでしょうね。

鈴木部長 私が関西の人間じゃなかったのも、逆に伝統的な町内会の地域組織に入り込めたんだと思います。祭りのときは、いつも懇意にしている方のお宅にお邪魔しているんですが、当然、大工方を中心にした「だんじり祭り」を撮影したこともありました。関東の人間が祭りを運営する町内会の組織によく入り込めたねと言われるんですよ。東京弁これがうまく皆さんに受け入れられたんでしょうか。岸和田の「だんじり祭り」は町内ごとに祭りを運営していますので、その組織に入り込むのはやはり難しいですね。

司会 だんじりの映像を見ていると、だんじりに乗っていないと撮れないようなカットがありました。

鈴木部長 ああいった映像はだんじりに乗らなくても撮れるんですよ。音声取材のときに使う長いブーム（棒）のようなものに、ちっちゃなオスモ（Osmo）というメーカーのカメラを付けて撮影できるのです。このオスモというカメラは振動にも強く、そんなにぶれない。3年前に発売されて、画質も非常によく、画期的な機材です。NHKの「ブラタモリ」で使われています。ENGカメラ1台と後ろからモニターを見ながら、こうやって長いブームのようなところに付いているカメラを持っている人いますね。あれがオスモという機材なんです。そんなに高価じゃなく、20万円ぐらいですごく優秀なカメラです。

【注】音声ブーム➡MKH-416、MKH-816

出席者 取材で使う機材などが技術的な面で変わっていくというのはあるんですか。

鈴木部長 そうですね、あります。開門神事の“福男選び”の撮影では、門が開いて一番福をねらってスタートしていく男たちの集団を、カメラは全体を見通せる上からのアングルでねらうのですが、昔は大きなカメラで撮っていましたがやはり重みがかかって、たわみというか、やはり限度があるんですよ。しかし、今はカメラが小型化して、軽くなり、結構近くまで寄っていけるのでいい映像が撮れるようになりました。しかしカメラが軽量化したとはいえ、開門のスタート時は、毎年同じ状況なので密かに思っているんですよ。それこそドローンを飛ばそうかと思うんですが、祭りのときはドローンを飛ばすのは禁止になっているんです。開門は早朝6時ですから、ヘリコプターを飛ばすというわけにはいきませんし、



まだ暗い(1月の行事)ので果たして映像が撮れるかどうか分かりません。  
この西宮神社の“福男選び”は、この17、8年で今のように抽選になりましたが、最初の頃は早いもん順だったのです。  
わが社も2年目か3年目に、実際に記者二人(アメフトとサッカー一部出身)を走らせました。この年7番と8番ぐらいまで迫ったのですが、でもこの二人は最後の最後に楠のあるところで転んじゃったんです。番組的にはこの回の分が一番面白かったですね。  
今は僕も50代に入って、さすがに顔出しのレポートはやめました。  
アナウンサーにやってもらおうと思います。

司会 引退されるそうです。

出席者 もったいないですね。

#### <自宅から追跡撮影 大阪府北部地震>

鈴木部長 西宮神社には必ず行っていますので。

さて次に、先週6月18日に起きた大阪府北部地震(午前7時58分発生)を記録した映像を見ていただきます。

実は私は入社前で、地震が起きたとき、記録に残しておこうと自宅からカメラを回し始めました。私が住んでいるところは兵庫県伊丹市で、阪急・伊丹駅のすぐそばです。

午前8時地震発生直後の自宅内部の映像に続いて鈴木部長が伊丹駅構内からレポートを始める。  
「地震発生から10分が経ちました。  
現在、阪急線が止まっております。  
伊丹駅構内は大混雑です」。

このあと

鈴木部長は阪急・伊丹駅付近からタクシーで大阪方面に向かう。途中、伊丹小学校、阪神高速空港線、そして、新大阪駅と地震の影響を刻々とカメラに記録し、自らレポートしていく。  
通勤の際、常時カバンに入れている小型のデジタルカメラがフル稼働。

△伊丹小学校 児童・保護者が避難。  
レポート「地震発生から30分が経っています」。

いま、伊丹小学校 みんな避難しております。  
お母さん、保護者が来ております」。

#### △全線ストップ 阪神高速空港線

レポート「阪神高速空港線です。空港線は全線で止まっています。地震発生から 40 分経ちました」。

#### △新大阪駅 タクシー乗り場に長い行列

レポート「午前 10 時です(地震発生から 2 時間)。新大阪駅です。外にはタクシーを待つ人の列がおよそ 200 人から 300 人ぐらい新御堂のほうまで連なっています。すごい混雑です。

新大阪駅です。タクシーを待つ人の列がこのようにすごく並んでいます。300 人ぐらい並んでいます(駅付近のノイズ)」。

#### △新御堂筋の淀川の橋の上を人が歩いている。

レポート「地震発生から 1 時間 10 分経ちました。新御堂筋の橋の上です。普段、人が歩いている風景は見られませんが、現在電車が止まっているため、この橋の上を人(通勤客ら)が歩いています。地震発生から 70 分経ちました。淀川の橋の上です。新御堂筋の橋の上です。現在多くの人都在这里を歩いています。本来、人はまばらなところなんですが、現在皆さん電車が止まっているため歩いています」。

#### △鈴木部長が歩いている人にインタビュー

Q どちらから歩いてこられましたか。

A 東淀川駅から

Q どのくらい歩いていますか。

A もう 2 時間ぐらい。

Q 2 時間も歩いているんですか。頑張ってください。

お疲れさまです。どのくらい歩いていますか。

A 30 分ぐらい。

(鈴木部長が出勤途中に撮影した地震関連の映像は午後2時からのワイド番組「ミヤネ屋」始めニュース番組「ten」などで放送された)。

### <先輩からの教え「地図を覚えろ」 渋滞の緊急時を救う>

鈴木部長 地震のときたまたまなんです、自宅からカメラを回し始め、阪急・伊丹駅前のタクシー乗り場で並んでタクシーに乗り、当初、運転手さんは176号線が近いと言うので、176号線経由で大阪に向かいました。ところが全然車が渋滞で動けなくなってしまい、運転手さんから地図を借りたんです。それで私がアナログで地図を見ながら、運転手さんに指示したわけです。どんどん左に行って神崎川の南側は多分行けるような気がしたので、新大阪と東三国の間にぽっと出て、そのまま行けばよかったです。ちょっと新大阪駅をのぞこうということで立ち寄ったら、もうタクシー乗り場に凄い行列が出来ていました。こんな光景は見たことないので、ちょっと撮ろうと思い、カメラを回し始めたわけです。5分ぐらい撮って、新大阪駅構内、新幹線の乗り場のところも撮影し、新御堂筋に出ようとしたときに、淀川の橋の上を歩く“出社難民”に遭遇することになるのです。僕は2011年の「3・11」(東日本大震災)のとき、東京にいましたので、あのとき見た東京の“帰宅難民者”の逆やなあと思ったんです。カバンにしまっていたカメラを取り出して再び撮影を始めました。

そしてこれだったら、インタビューも撮ったらいいのかなと思い、通勤・通学の人々が橋を渡り終えたところでインタビューをしました。今、コンプライアンスの問題があって、こういう状況でのインタビューには、迷惑にならないよう十分配慮する必要があります。私の顔出しレポートの映像を自撮りでこうやって撮ると、顔のアップしか撮れないんです。プロのカメラマンとしては、やっぱり顔出しの映像はウエストから顔まで入ったサイズにしたい。そこで面識のない高校生2人組にお願いして「レポートする私」の映像をちょっと広いサイズで撮ってもらったんですよ。たまたまですが、うまくいきました。もちろん彼らにはカメラの操作方法を教えました。

司会 実は、緊急時にこうやって地図を見ながら、タクシー運転手に指示していたという話には、昔々の先輩からの教えがあるようです。「地図を覚えろ」という話を紹介してもらえますか。

鈴木部長 最初カメラマンになって、お前は東京の人間なんだから、まず地図を覚えろと言われました。先輩(カメラ)は関西出身の人が多いです。ともかく取材に行くときはタクシーを利用します。YTVは取材した素材(映像原稿)を運ぶバイクも少

なかったし、タクシーなどで原稿を運ぶ「持ち便」が多かったですね。取材した映像テープの持ち込みが遅れると、よく怒られました。エディター(編集者)がめっちゃ怖いんですよ。

テレビニュースの取材競争、勝負は昼前の 11 時 30 分前後。それでも 11 時 15 分から 20 分までに原稿を会社に持ち帰れたらいいんですが。

今、昼ニュースのローカルニュース(地元のニュース)を出す時間帯で言うと YTV が一番早くて 11 時 40 分なんですよ。MBS が 11 時 47 分～48 分、次、関西テレビのほうがちょっと早いかな。ABC の昼ニュースは全国ニュースが 11 時 45 分から始まるので、ローカルニュースは 11 時 55 分～56 分からの放送になります。テレビ局は昼ニュースが勝負なんです。この 11 時 30 分から 11 時 55 分～56 分間に各局のローカルニュースが編成されていて競争になっている。

そこでいつも言われるのですが、取材した素材のスタジオへの持ち込みが遅れたりすると、道が混んでいるのも関係ない、タクシーの運転手のせいにするな。とにかくお前の責任なんだからと。だから僕は必死になって「地図」を覚えました。最初の 7 年～8 年でタクシー運転手並みに地図を覚えましたね。

タクシーって、意外と高速道路には乗らない。お金がかかるということもあるのでしょうか。

やっぱり報道機関で仕事をしていると高速道路を利用して、一刻も早く現場に向かう。また取材し撮影したビデオテープはどこよりも早く持ち帰る、これが鉄則ですから。タクシー運転手は、高速道路の乗り口と降り口付近の地図は、意外と知らないんです。だから、取材に出かけるときは、常に地図を持参していました。

出席者 常にカメラは自宅に置いておられるのですか。

#### <教育大付属児童殺傷事件でスクープ 自宅に小型デジタルカメラ>

鈴木部長 自宅に置いていて出かけるときは必ず持ち歩いています。このデジカメは 5 万円ぐらいです。今、スマホのほうが撮りやすく。画質も同じぐらいです。

ただ、私が持っているこのデジタルカメラは、小型でズームが効くので便利です。このカメラに関して言うと、大阪池田にある大阪教育大付属小学校で起きた児童 8 人刺殺事件のとき、私がいち早く現場に着き、このデジカメで学校内の映像を撮影しました。校内の映像を撮ったのはテレビでは私(YTV)だけでした。あと新聞は朝日新聞、毎日新聞でした。

【注】2001 年 6 月 8 日、池田にある大阪教育大付属小学校に刃物を持った男が乱入、児童 8 人を刺殺し、児童、教職員 15 人に重軽傷を負わせた。

デジカメはいつも持参していますが、めったに使わないですね。だけど定期的に充電はしております。今回、大阪府北部地震では役立ちました。

出席者 高校生にこのデジカメを持たせて、撮影させたのですか。

鈴木部長 そうです。このデジカメです。そのとき、“悪い”と言ってお願いしました。結構、背の高い高校生でした。先ほど、カメラを持ち歩いていると言いましたが、私は、嫁さんに怒られているんですよ。子供の運動会なんかでは撮ってないんです。休みの日まで(カメラは)回したくないんですね(笑い)。

出席者 伊丹の自宅を出られてから、タクシーで大阪に向かい、途中、大渋滞に巻き込まれながら、阪急伊丹駅→伊丹小学校→阪神高速空港線→新大阪駅・タクシー乗り場、そして淀川の橋を行列して歩く“通勤難民”を取材・撮影して読売テレビの本社に着いたのは何時ごろでしたか。

鈴木部長 (朝8時前に自宅を出て)午前10時40分ごろ会社に着きました。東京の“帰宅難民”も大変で大きなニュースになりましたが、今回の大阪北部を中心にした地震でも新大阪から大阪市内に向かう通勤、通学の人々の列が淀川を渡って延々と続き、その光景がテレビや新聞紙面に大きなニュースとして取り上げられました。新幹線は動いていて、新大阪に着くんですが、地下鉄、私鉄、JRなど来線が一時京阪神地域の全線で運転を見合わせたため、大規模な混乱をもたらしたのでしょう。また同じようなことが起きるかもしれませんね。

#### <日本の初戦相手国を追ってアフリカ取材 4年前のFIFAサッカー>

さて現在、ロシアではワールドカップサッカーの熱戦が続いています。4年前、2014年ワールドカップブラジル大会で、日本が初戦コートジボワール(西アフリカ)と戦ったんですが、私はそのコートジボワールへ事前取材に行ってるんです。実は、プライベートな旅行でイタリアのベニスに行きたくて、ヨーロッパに行くんだったらそのベニスに行く前に、アフリカに立ち寄ってみようと思いついたんです。コーディネーターもなく、私一人で緊急取材した7分余りの映像です。

(番組では

鈴木部長のことがこんな風に紹介されている)  
「読売テレビの報道デスク鈴木潤。これまでカメラ

マンとして数々の危険地帯にも足を踏み入れ、リポートしてきたベテランデスクです」。

「型にはまらない独自の目線でのリポートが特徴で、前回の南アフリカ大会やソチ(ロシア)冬季五輪など重要な場面で現地の様子を伝えてきました。

その鈴木ですが、今度は日本代表の大事な初戦の相手、1万4000キロ離れたコートジボワールを緊急取材」

鈴木部長はデジカメ片手にコートジボワール最大の都市アビジャンに乗り込む。裸足でサッカーを楽しむ子供たちや、奇跡と言われるほどの経済発展を遂げた高層ビルが林立する、その街並みとは対照的なスラム街の存在にも視線を注ぎ、カメラに収めていく。

△大西洋コートジボワール、象牙海岸

△アビジャンの高層ビル

△スラム街（富裕層と貧困層の格差）

△裸足でサッカーに興じる子供たち

子供たちの会話の中に「本田、長友、香川」の名前も  
△街を走る“赤いタクシー”9割がトヨタのカローラ  
△日本のキヨスクのような店、新聞を立ち読みする人  
(ほとんどの人は見出しだけ見て立ち去る)

△コートジボワール・サッカーのエースストライカー  
ドロクバ選手を、国の“英雄”と紹介。15年前、軍事クーデターが起き、二度の内戦を経験している。  
(ナレーションではドロクバ選手がテレビで停戦を呼びかけ、一時的に停戦になったことを伝える。  
そして「3年前、内戦は終結、再び一つになったコートジボワール、この強敵を相手に日本代表はどんな試合を見せてくれるか」と結ぶ)

司会 このアフリカ・コートジボワールの取材は、ワシントン特派員以降の話ですね。

鈴木部長 そうです。

司会 鈴木さんの(取材の)目線の基本的なものは何なんですか。

### <読売テレビ 三作品が受賞 関西写真記者協会の部門賞>

鈴木部長 面白いことを見つけることですか。真面目ではないですね。はっきり言って。時間を忘れて話し込んでしまいましたが、これでようやく、冒頭で触れました関西写真記者協会での受賞作品をご紹介します。

(関西写真記者協会は加盟 76 社、会員約 1100 人)。

(ここからは「関西で一番元気なカメラマン集団」を率いる読売テレビ報道映像部長として多くの若い報道カメラマンを指導し、報道活動を組織的に支える管理者としての顔を見せる)。

2017 年、読売テレビが受賞した作品は次の三作品です。

◎スポーツ部門金賞『『なぎなた』にかける暑い夏～日本一を目指す女子高校生～』奈良育英高校なぎなた部、特に夏のインターハイにかける女子部員二人を軸に、競技としてのなぎなたを克明に追っている(約 19 分)。

「デスクが昔から温めていた企画だということもあり、プレッシャーがかかった」(担当カメラマン)。

◎撮影部門銀賞「奈良の冬 そして春へ～1300 年の歴史～」

舞台は、春を待つ奈良公園、平城京跡、東大寺、川上村、東吉野村、長谷寺の情景を記録。曾爾高原の山焼きはドローン 2 機でフォロー(約 9 分 30 秒)。

「高さ 10 ㍎にもなる真っ赤な炎と約 40 ㍎におよぶススキが焼かれていく様子を迫力ある映像で撮影することができた」(担当カメラマン)。

◎企画部門銀賞「樹齢 300 年 守り伝える人々～奈良・宇陀のしだれ桜～」

樹齢 300 年を超える奈良・宇陀の又兵衛桜と歴史ある大野寺の小糸枝垂れ桜を守り伝える人々の物語 (8 分 40 秒)。

「(衰えつつある桜の命が続くようにと世話をする住職の) その情熱に心動かされた取材スタッフは、蕾<sup>つぼみ</sup>から散り行くまでを連日、撮影させて頂いた。わざわざ雨風の日にまだ 3 分咲きの桜を撮影しに行ったのも、これに耐えて立派に咲き誇っているところを見たいと思わされたからだ」担当カメラマン。

(YTV 社内報参考)

鈴木部長 関西写真記者協会のこの賞は、カメラマンと映像デスクの技量で決まります。

一種の映像コンクールで、各局の映像セクションがお互いにライバル意識を持って、その企画力、技量を競い合っています。

今年もまた、10月ぐらいに審査があり、テレビ各局、新聞も、それに向けて出品する映像作品を、日常のニュース活動の中から選び、さらに新たに企画・制作するのです。

今日見ていただいた2017年度に選ばれた協会賞・各部門賞の発表会は新聞部門を含めて12月20日過ぎに阪神デパートで開かれます。

司会 こうやってカメラマンが企画して、自分で撮ってきて作品を作るわけですが、カメラマンの良い点をどうやって引き出すのですか。

鈴木部長 そこまでシビアに考えていませんが、やっぱり企画力のあるカメラマン、技量の優れたカメラマン、つまり、うまいカメラマンに担当させることになりますね。今回も、受賞した「なぎなた」は、報道映像部副部長（映像デスク）がディレクターとして取材を仕切っています。「奈良の冬」も「枝垂れ桜」もデスクとして関わっています。

カメラ歴2～3年の若いカメラマンでも企画を出してやりたいと提案があれば、もちろんトライさせますが。

金賞を取ったNHKの「ロシアの巨大水中洞窟探検」はすばらしかったですね。

#### <ネット回線利用の「簡易中継装置」導入 平昌五輪から生中継>

最後に、テレビ中継の最前線をご紹介して私の話を終わりたいと思います。

従来のマイクロ波や通信衛星の専用回線を使って伝送するSNGを使って行うテレビ中継とは異なり、インターネットや携帯電話を使って中継できる簡単な装置が登場したのです。【注】SNG (Satellite News Gathering)

これは、不特定多数の利用者が通信のために使っている公衆回線を利用する「簡易中継装置」です。

読売テレビが2018年2月、韓国で行われた冬季五輪「平昌（ピョンチャン）大会」で、そのテレビ中継の簡易中継装置を導入し、現地の模様を伝えました。

DVDにまとめていますので映像をご覧ください。

「簡易中継装置」が「平昌五輪」でどのように使われたか。

#### <「簡易中継装置」(TVU)が活躍>

女性アナ

「以前は苦労がともなったオリンピックの中継、それを簡単にした方法をご紹介します」。



#### 男性アナ

「心に残る熱い戦いが繰り広げられた平昌五輪。読売テレビでも「ミヤネ屋」「ten」「ウェークアップ！ぷらす」などさまざまな番組で、その様子取材しました。

#### 女性アナ

「山本アナがリポートしているのは、平昌五輪の会場前です。この中継は4人のスタッフでチームを組み行いました。少し前までは海外から中継する場合は衛星に電波を飛ばすために中継車など大掛かりな機材と人数が必要でした。しかし現在は、カメラの背中に背負われているのが中継するための機材です。インターネットの回線を使うことにより、小規模で中継が行うことができるようになりました。視聴者の方が使われている携帯電話の中にあるデータ通信カードを使います。何枚ものカードを使うことにより、より多くのデータを送ることができるシステムです。さらにスタジオとの掛け合いでも――。

#### 男性アナ

「アナウンサーって、スタジオの方と話をしなければいけないんですが、その時の器械というのが、こういったスマートフォンを使って音を聞くことができる。皆さんがもっている身近な機器でこれを使用しているのです。

さらに今回のオリンピック中継をするに当たって、スタッフにもさまざまな苦勞が。

#### 技術スタッフ

「この平昌五輪は冬のオリンピックの中でも最も寒いオリンピックと言われるように、やっぱり寒さが問題でした。バッテリーをつけているんですが、減り（消費）が早くて、中継の合間には小まめにバッテリーを交換しないとすぐにバッテリーが落ちてしまう状況になったので、バッテリーにもカイロを付けて温度を保つという工夫もしました」。

(このあと、映像は北朝鮮の芸術団・サムジョン管弦楽団のバスを追う。  
芸術団員を乗せたバスの前後を警察車両が取り囲み、そのまわりを地元の  
テレビ局の車列が追う。バスがトンネル内に入る映像が生中継される)

鈴木部長 トンネル内の映像は、新しい「簡易中継装置」を使った生中継です。映像が途切れるのではないかと思って放送を見ていましたが、きれいにトンネル内を追跡しながら生中継していました。時代が変わりましたね。  
普通、マラソン中継をするときには、必ずリハーサルしますよ。これはリハーサルなしで、映像は途切れませんでした。だからと言って、次行ったときに成功するとは限らない。確約がないまま、今、報道中継が行われています。ほぼ8割から9割 大丈夫だろうということで中継しています。

出席者 この新しい中継方式は携帯電話の電波を使っているために、音が途切れたりというのはあるんですか。

#### <大地震・大津波 緊急時の生中継はやはり SNG とマイクロ波か>

鈴木部長 ただイベント会場など人が多く集まる場所では携帯電話を利用する人が多くなり要注意。今回の方式の生中継は、すでに各社とも導入しています。  
YTV が使っている「簡易中継装置」TVU、それにライブユーLiveU、さらにスマートテレキャスターSmart-telecaster の三つに分かれています。機能的には、ほぼ同じです。

新しい中継システムが登場してきましたが、2年前にこんなことがありました。神戸の JR 三ノ宮駅北口近くで乗用車が歩道に乗り上げ歩行者ら 5 人が重軽傷を負った事故がありました(2016.5. 3)。あのとき YTV は古いタイプの中継機器(マイクロ波を使う)を神戸支局(と京都支局)に置いていたのです。発生時間が午前 11 時 5 分でした。各局が昼ニュースに空撮の映像しか、間に合わなかったが、YTV は地上から撮影した暴走現場の惨状をいち早くマイクロ波(古いタイプだが、生中継の主流)で送出し、昼ニュースに間に合ったのです。わが社だけが圧勝でした。

関西のテレビ各局は、南海地震、東南海地震に備え、もしもの時に素早く対応できるように、特にテレビ中継のための中継機器の整備、拡充を急いでいます。

司会 撮影もそうですが、映像素材の伝送・送出についてもわれわれの時代と比べると、めっちゃくちゃ進歩していて、ひょっとすると本社に行っても何がどうなっているのか、分からない状況になっています。ときどき本社をのぞかれることをおすすすめします。私も好きで、ときどき撮影部門、それから取材先から映像を受け

るセクションの現場を見せてもらうことがあります。  
時間が迫ってきました。ご質問のある方、どうぞ。  
読売テレビの元気なところが、鈴木さんの今日のお話や見せていただいた映像からよく分かりました。

出席者 われわれの頃は、SNGが入ってびっくりしたその時代ですから、それが全く古いわけですからね。

鈴木部長 そうですね。ただ各社が今持っているのは、たまたま電話回線がうまくいっているからで、あの「3・11」（東日本大震災）のときは、ほんとダメなんですよ。例えば、東南海地震が起きたとします。そして大津波警報が発令されるとこの機械（小型カメラ）は最初の日ぐらいしか使えないと各局認識しているんですよ。大津波警報が出る事態になれば、やっぱりマイクロ波が強いですよ。SNGが強いということは各局とも分かっています。だから最新鋭のSNGを導入し、東南海地震、南海地震に備える放送局がでてくるのです。

司会 というわけで、今日は熱い話をたっぷりお聞かせいただき、ありがとうございました。関西各局の映像集団というのはヨコ（各局）を見ながら、競い合いながら、仲良くやっている感じがあらわれていて、いい勉強になりました。そして映像自体も、カメラマンが人間を生き生きと描いていて感心しました。

#### <65年前 初のテレビ生中継はトラック 2台で機材運搬（例会資料）>

【参考】65年前の「テレビニュース」は“紙芝居”のようだった

（「メディアウオッチング」第45回例会 資料より）

#### <テレビ⇒情報伝達手段の変遷>

1953年 日本でテレビ放送始まる（NHK 2月、NTV 8月）。

- ▼ 開局間もないNHKのテレビニュースは一日2回、午後0時40分から4分間と午後7時20分から5分間。ラジオ用の原稿をテレビ用に書き直しアナウンサーが読み、スタジオカメラで文字やパターン、写真などを写していた。アナウンサーの顔出しはなかった。
- ▼ NHKがフィルムニュースを始めるのは半年後の1953年8月から、当初は「NHK映画ニュース」と呼ばれていた。翌年1954年6月には文字やパターンを使ったスタジオニュースと統合され、『NHKニュース』となる。この時点からニュース枠は一日3回。<正午（15分間）、午後7時（10分間）、午後8時30分（10分）>

- ▼ ニュース用のフィルムは16ミリを使用していたが、現像できる所が少なく、「NHKが一時使っていた現像所では3日もかかった」という記述がある。  
(参考『20世紀放送史』)(NHK出版)

**NHKが初のテレビ生中継** 1953年3月 皇太子殿下(現天皇)がエリザベス女王の戴冠式に出席。横浜港から2段中継(中継車なく、トラック2台で放送機材を運ぶ)。

1956年 8月 日本テレビが開局3周年を機に「顔出しニュース」の手法を取り入れる。  
NHKも翌年1957年10月から午前7時に「けさのニュース」を新設。  
情報の伝達者がカメラに向かって伝えるスタジオニュースを始める。

1958年 VTRの時代⇒ドラマなど番組作りの表現が多様化、深化へ貢献。

1960年 白黒テレビからカラーテレビへ 6月 カラーの本放送開始。

1974～1975年 ENG 登場 (Electronic News Gathering)  
VTRを組み込んだ小型ビデオカメラが報道活動の軸に。

1989年 衛星の時代 SNG (Satellite News Gathering) がテレビ報道に革命。  
通信衛星の専用回線を使って、映像・音声素材を伝送するSNGシステムは  
1990年夏までにNTV、TBS、フジテレビが運用開始。  
NHKも1992年12月から運用を始めた。へき地からの生中継も可能になる。

2000年 12月 BSデジタル放送 開始。

以上